

大学等名	群馬県立女子大学
プログラム名	群馬県立女子大学数理・データサイエンス・AI学習プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

文学部

③ 修了要件

文学部の新生を対象とする必修科目「情報処理1」の2単位を取得すること。

必要最低科目数・単位数

1 科目

2 単位

履修必須の有無

令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報処理1	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報処理1	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報処理1	2	○	○	○					

⑦ 「活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報処理1	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報処理1	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報処理1	4-3データ構造とプログラミング基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	ビッグデータ、IoT「情報処理1」(2回目) データを起点としたものの見方(3回目)
	1-6	AI最新技術の活用例「情報処理1」(4回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	調査データ「情報処理1」(9回目) データのオープン化「情報処理1」(9回目)
	1-3	仮説検証、知識発見「情報処理1」(10回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	データ解析: グルーピング、パターン発見「情報処理1」(9回目) データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ「情報処理1」(7回目)
	1-5	データサイエンスのサイクル「情報処理1」(9,10回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報処理1」(3回目)
	3-2	情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「情報処理1」(15回目) 匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取「情報処理1」(15回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの種類「情報処理1」(9回目) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「情報処理1」(7回目) データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「情報処理1」(10回目)
	2-2	データ表現(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図)「情報処理1」(7回目)
	2-3	データの集計(和、平均)「情報処理1」(6回目) データの並び替え「情報処理1」(10回目) データ解析ツール(スプレッドシート)「情報処理1」(5,6,7,8回目) 表形式のデータ(csv)「情報処理1」(9回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

社会データを収集し、整理、分析した上でそれらを適切に読み解く能力を身につける。  
表計算やプログラミングを通して、発展的なデータサイエンスの手法を学ぶ上で基礎となる能力を身につける。

大学等名	群馬県立女子大学
プログラム名	群馬県立女子大学数理・データサイエンス・AI学習プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

国際コミュニケーション学部

③ 修了要件

国際コミュニケーション学部の新入生を対象とする必修科目「情報・データ処理基礎」の2単位を取得すること。

必要最低科目数・単位数

1 科目

2 単位

履修必須の有無

令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 「現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報・データ処理基礎	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報・データ処理基礎	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報・データ処理基礎	2	○	○	○					

⑦ 「活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報・データ処理基礎	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報・データ処理基礎	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット(2回目、3回目)</li> <li>・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会(2回目)</li> <li>・人間の知的活動とAIの関係性(3回目)</li> </ul>
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI等を活用した新しいビジネスモデル(商品のレコメンデーションなど)(2回目)</li> <li>・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、生成AIなど)(3回目)</li> </ul>
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査データ、実験データ、人の行動ログデータなど(6回目)</li> <li>・1次データ、2次データ(6回目)</li> <li>・データのオープン化(オープンデータ)(6回目)</li> </ul>
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)(3回目)</li> <li>・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援など(13回目)</li> </ul>
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ可視化: 関係性の可視化など(5回目)</li> </ul>
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論)(5回目)</li> <li>・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介(3回目)</li> </ul>

(4) 活用に当たった様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues) (4回目)</li> <li>・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、オプトアウト(4回目)</li> <li>・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護(2回目)</li> </ul>
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性) (4回目)</li> <li>・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証とパスワード、悪意ある情報搾取(4回目)</li> <li>・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介(4回目)</li> </ul>
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの種類(量的変数、質的変数) (5回目)</li> <li>・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値) (9回目)</li> <li>・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い) (9回目)</li> <li>・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値) (10回目)</li> <li>・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡) (8回目)</li> <li>・クロス集計表、分割表、相関係数行列 (7回目、9回目)</li> <li>・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない) (8回目)</li> </ul>
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ) (9回目、12回目)</li> <li>・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素) (13回目)</li> </ul>
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの集計(和、平均) (7回目)</li> <li>・データ解析ツール(スプレッドシート) (6回目)</li> <li>・表形式のデータ(csv) (6回目)</li> </ul>

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化社会で起きている変化や生成AIのインパクトを理解できる。</li> <li>・情報セキュリティへの心得を醸成できる。</li> <li>・数理的教養に親しみ、データを適切に読み解くことができる。</li> <li>・データを適切に活用しながら他者に説明することができる。</li> </ul>
---

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数  
(令和6年5月1日時点)

男性 0人 女性 940人 (合計 940人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数												
文学部	670	150	580	181	181											181	31%
国際コミュニケーション学部	270	60	240	67	66											67	28%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	940	210	820	248	247	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	248	30%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤)  人 (非常勤)  人

② プログラムの授業を教えている教員数  人

③ プログラムの運営責任者  
 (責任者名)  (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)  
  
 (責任者名)  (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	30%	令和7年度予定	50%	令和8年度予定	75%
令和9年度予定	100%	令和10年度予定	100%	収容定員(名)	820

具体的な計画

本学の対象科目は各学部の必修科目となっているため、今後も1年次での履修を推奨し、ガイダンス等で周知する。  
文学部では4クラス、国際コミュニケーション学部では2クラスで開講しており、他の必修科目に被らない時限での受講が可能となっている。今後も他の必修科目の開講状況に配慮しつつ、学生が受講しやすいように時間割を設定していく。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

両学部の必修科目となっているため、希望の有無にかかわらず学生全員が受講する必要がある。  
各クラスで教室のパソコンの台数による定員を設けているが、全員が受講できるようにしている。  
また、全学生にGoogleアカウントを配付することで、Googleの各種サービスを使用することができるようになっている。クラスルームを通じた課題提出など、学生がオンライン上で必要な情報を確認しながら履修が進められるようにしている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

両学部の必修科目となっているため、各学部の新入生に向けてのオリエンテーションで概要を説明し、周知している。  
授業で使用できるパソコンの整備や、学内Wi-Fiの整備を行うなど、環境整備も随時行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

新入生向けのオリエンテーションにて、科目の概要やクラス分けなどについて周知し、必修科目となっていること／情報について学ぶことの重要性などを説明している。  
また、科目のシラバスはWeb上に掲載し、学生はいつでも授業の概要について閲覧可能となっている。  
必要に応じて、担当の専任教員が相談や質問を受け付けるなど、履修・修得に向けての学生への対応を随時行っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

オフィスアワーを設定し、専任教員は特定の時間に、学生からの質問・研究室への訪問に応じることとなっている。  
その他、教員の学内メールアドレスを学生に公開し、メールで質問を受け付けることもできるようになっている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

内部質保証推進委員会

(責任者名) 塩澤 寛樹

(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<b>学内からの視点</b>	
プログラムの履修・修得状況	各学部の必修科目であるため、原則として全ての学生が履修する必要がある。 文学部「情報処理1」は入学者181名全員が修得、国際コミュニケーション学部「情報・データ処理基礎」は入学者68名のうち66名が修得しており、プログラムの修得状況は順調であると考えられる。 今後もプログラムの履修・修得100%を目指し、オリエンテーション等での周知の徹底・履修指導などを行っていく。
学修成果	授業評価アンケートにて受講の満足度や分野への学習意欲・授業に関する意見などについて調査・集計し、今後の授業運営に役立てていく。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業評価アンケートにて授業への理解度や授業が学生の興味・関心の向上に繋がったかを調査・集計し、今後の授業運営に役立てていく。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	対象科目はいずれも必修科目であるため、後輩等他の学生への推奨という項目のアンケートは実施していないが、授業評価アンケートにおいて、「授業において工夫して欲しいこと」を学生がコメントできる欄を設けており、翌年度以降の授業の参考にしている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	各学部の必修科目であるため、履修率は100%を維持している。 今後もプログラムの修得率が100%となることを目指し、オリエンテーション等での周知や履修指導を実施していく。
<b>学外からの視点</b>	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	学内で保有している卒業生の情報や、卒業生の意見を聴く機会を活用して修了者の状況・意見を把握するとともに、学内で実施しているセミナーや合同説明会などにおいて企業の採用担当者へのヒアリング等を実施することにより、企業での活躍状況・評価を把握することを目指す。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	卒業生の意見を聴く機会や学内で実施しているセミナー、合同説明会などにおいて、企業の採用担当者へのヒアリング等を実施することにより、産業界が求める知識や技能について把握することを目指す。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>主に文系の学生が対象となるため、学生が専攻する分野でのデータサイエンスの活用を紹介するなどして、個々の学生の問題関心に惹きつけた授業を展開することを心がけている。また、総務省や地方自治体などが提供する公的データを取得して実習を行うことで、身近な問題とデータサイエンスやAIとの関わりについての理解を深めることも進めている。さらに、Pythonを用いたプログラミングの実習を通じて、単に情報を利用するだけでなく、より能動的に情報を処理して発信するための基礎を学べるような工夫を行っている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>学期末に実施している授業評価アンケートにて学生の理解度を把握し、授業の満足度や理解度などを改善するべく検討を重ねている。また、授業時には学生が実習内容をLMSを通じて提出し、それに対して適宜フィードバックを与えることで、学生にとって段階を踏んで授業内容を理解するような体制を確保している。</p>

選択した講義の内容です

令和 6 年度

 講義科目名称 : **情報処理1a**

 授業コード : **1A040**

 英文科目名称 : **Information Processing 1a**

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2単位	必修
担当教員			
黒田 覚			
教養教育	演習		
添付ファイル			

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等  授業で使用する言語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他  アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている
------	--

授業の内容（概要）	情報機器を、日常生活や学習のツールとして使うための、基礎的な知識と技能を修得することを目標とする。大学での学習においては、コンピュータやインターネットなどの情報技術の活用は不可欠のものとなっているが、それらを効率よく使いこなすには体系的な理解が必要である。この授業では、PCユーザとして必要な技術および、考え方について実践を通じて学習する。
-----------	--

授業の目的	大学における学習や日常生活において、情報技術を適切に利用するためのスキルを身につける。
-------	---

到達目標	情報機器の操作と、文書作成などの基本的技術の習得。 情報セキュリティやモラルの基礎知識の習得。 プログラミングを通じた情報技術の理解。
------	---

授業計画	1回      インTRODクシヨN 講義概要および使用機器の説明  2回      基本操作 情報機器の基本操作に関する実習  3回      情報検索 インターネット上の情報を検索する方法の実習  4回      情報検索 インターネット上の情報を検索する方法の実習  5回      情報整理の方法 表計算の基本操作  6回      情報整理の方法 表計算、数式と関数  7回      情報整理の方法 表計算、グラフの作成  8回      情報整理の方法 表計算の基本操作  9回      情報整理の方法 公的データを用いた分析  10回     情報整理の方法 公的データを用いた分析  11回     情報整理の方法 公的データを用いた分析  12回     プログラミング入門 入出力と変数  13回     プログラミング入門 条件分岐  14回     プログラミング入門
------	---

	繰り返し 15回 情報セキュリティ 情報セキュリティとモラル						
テキスト	授業時にハンドアウトを配布する						
テキスト購入方法	テキスト学内販売予定 あり						
参考文献	授業時に提示する。						
成績評価の方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>評価割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実習</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>学期末課題</td> <td>40%</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価割合	実習	60%	学期末課題	40%
評価項目	評価割合						
実習	60%						
学期末課題	40%						
教員への連絡方法	メールによる satoru@mail.gpwu.ac.jp もしくはオフィスアワーに研究室で対応						
履修上の注意	特になし。						
授業外学修情報（予習復習）	必要に応じて授業時に提示する。						
学生へのメッセージ	情報機器の使用に関する高度な技術は必要としない。						

 ページ先頭へ戻る

選択した講義の内容です

令和 6 年度

操作ボタン

印刷

講義科目名称 : **情報処理1b** 授業コード : **1A125**  
 英文科目名称 : **Information Processing 1b**

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2単位	必修
担当教員			
関川 弘			
教養教育	演習		
添付ファイル			

授業種類	<p>実務経験のある教員等による授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■実務経験のある教員による授業科目</li> <li>□実務家を招へいして実施する授業科目</li> </ul> <p>実務経験・授業での活用、招へいする実務家等 適宜、企業における情報技術の活用事例を紹介する</p> <p>授業で使用する言語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■日本語</li> <li>□英語</li> <li>□その他</li> </ul> <p>アクティブラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□アクティブラーニング要素を取り入れている</li> </ul>
------	--

授業の内容（概要）	(1)データを取り扱うハードウェア・ソフトウェア、(2)情報の可視化、(3)データの読み取り、(4)データの説明、(5)サーベイ実習、(6)プログラムの作成方法、(7)情報セキュリティを学ぶ。
授業の目的	情報リテラシーおよびプログラム作成が授業目標である。 データの取り扱いを中心とした情報リテラシー能力を身に付け、情報の可視化やサーベイ実習を通じてデータの読み取り方やデータの説明の仕方を学ぶ。また、プログラミングを通じて論理的思考を身に付ける。
到達目標	この授業を履修することで、次の能力を養います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データを取り扱うハードウェアやソフトウェアの基礎</li> <li>・表計算ソフトの利用やグラフ作成</li> <li>・プログラム作成</li> <li>・情報セキュリティの基礎</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス CALL教室の基礎知識 データを取り扱うハードウェア</p> <p>第2回 データを取り扱うソフトウェア データを作る表計算ソフト</p> <p>第3回 情報を可視化する 情報の可視化、可視化手法</p> <p>第4回 データを読み取る グラフから読む、データの尺度と種類、データの中心、度数分布表</p> <p>第5回 データを読み取る データのばらつき、クロス集計、散布図と相関、標本調査</p> <p>第6回 データを説明する 統計とコミュニケーション、気温の変化（箱ひげ図）</p> <p>第7回 サーベイの基礎1 データを収集・蓄積・活用する</p> <p>第8回 サーベイの基礎2 アンケートの検討とアンケートフォームの作成</p> <p>第9回 サーベイの基礎3 アンケートの調査と集計</p> <p>第10回 サーベイの基礎4 アンケートのレポート作成</p> <p>第11回 プログラミング1 プログラムの開発方法、オンラインCコンパイラ</p> <p>第12回 プログラミング2 データの取り扱い</p>

	第13回 プログラミング3 構造化プログラミング 第14回 プログラミング4 プログラミングのまとめ 第15回 情報セキュリティ 情報セキュリティ、個人情報の保護と活用						
テキスト	新入生のためのデータサイエンス入門、豊田修一ほか、ISBN-9784320125728、共立出版						
テキスト購入方法	ー 学内斡旋販売						
参考文献	授業中に指示する。						
成績評価の方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>評価割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価の説明          講義時間中に作成する課題（80%）、及び期末試験（20%）により評価する。なお、期末試験は、講義時間中に取り組んだ課題と類似した問題を出題する。</p>	評価項目	評価割合	課題	80%	期末試験	20%
評価項目	評価割合						
課題	80%						
期末試験	20%						
教員への連絡方法	メールアドレスを周知します。						
履修上の注意	課題を出題するので必ず期限内に提出すること。						
授業外学修情報（予習復習）	復習に60分程度を要する。						
学生へのメッセージ	実習時間をできるだけ多く取るので積極的にコンピュータに触れて下さい。						

 ページ先頭へ戻る

選択した講義の内容です

令和 6 年度

操作ボタン

印刷

講義科目名称 : 情報処理1c

授業コード : 1A130

英文科目名称 : Information Processing 1c

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2単位	必修
担当教員			
樽井 勇之			
教養教育	演習		
添付ファイル			

授業種類	<p>実務経験のある教員等による授業科目</p> <p><input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目</p> <p><input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目</p> <p>実務経験・授業での活用、招へいする実務家等</p> <p>授業で使用する言語</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 日本語</p> <p><input type="checkbox"/> 英語</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>アクティブラーニング</p> <p><input type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている</p>
------	--

授業の内容（概要） (1)データを取り扱うハードウェア・ソフトウェア、(2)情報の可視化、(3)データの読み取り、(4)データの説明、(5)サーベイ実習、(6)プログラムの作成方法、(7)情報セキュリティを学ぶ。

授業の目的 情報リテラシーおよびプログラム作成が授業目標である。  
データの取り扱いを中心とした情報リテラシー能力を身に付け、情報の可視化やサーベイ実習を通じてデータの読み取り方やデータの説明の仕方を学ぶ。また、プログラミングを通じて論理的思考を身に付ける。

到達目標 この授業を履修することで、次の能力を養います。

- ・データを取り扱うハードウェアやソフトウェアの基礎
- ・表計算ソフトの利用やグラフ作成
- ・プログラム作成
- ・情報セキュリティの基礎

授業計画	<p>第1回 ガイダンス CALL教室の基礎知識 データを取り扱うハードウェア</p> <p>第2回 データを取り扱うソフトウェア データを作る表計算ソフト</p> <p>第3回 情報を可視化する 情報の可視化、可視化手法</p> <p>第4回 データを読み取る グラフから読む、データの尺度と種類、データの中心、度数分布表</p> <p>第5回 データを読み取る データのばらつき、クロス集計、散布図と相関、標本調査</p> <p>第6回 データを説明する 統計とコミュニケーション、気温の変化（箱ひげ図）</p> <p>第7回 サーベイの基礎1 データを収集・蓄積・活用する</p> <p>第8回 サーベイの基礎2 アンケートの検討とアンケートフォームの作成</p> <p>第9回 サーベイの基礎3 アンケートの調査と集計</p> <p>第10回 サーベイの基礎4 アンケートのレポート作成</p> <p>第11回 プログラミング1 プログラムの開発方法、オンラインCコ</p>
------	---

	第12回 プログラミング2 データの取り扱い 第13回 プログラミング3 構造化プログラミング 第14回 プログラミング4 プログラミングのまとめ 第15回 情報セキュリティ 情報セキュリティ、個人情報の保護と活用						
テキスト	新入生のためのデータサイエンス入門、豊田修一ほか、ISBN-9784320125728、共立出版						
テキスト購入方法	ー 学内斡旋販売						
参考文献	授業中に指示する。						
成績評価の方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>評価割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価の説明 課題（80%）は表計算ソフトなどで作成した電子ファイルでの提出が中心になります。小テスト（20%）は授業中に実施したペーパーテストなどで評価します。</p>	評価項目	評価割合	課題	80%	小テスト	20%
評価項目	評価割合						
課題	80%						
小テスト	20%						
教員への連絡方法	メールアドレスを周知します。						
履修上の注意	課題を出題するので必ず期限内に提出すること。						
授業外学修情報（予習復習）	復習に60分程度を要する。						
学生へのメッセージ	実習時間をできるだけ多く取るので積極的にコンピュータに触れて下さい。						

選択した講義の内容です

令和 6 年度

操作ボタン



講義科目名称 : **情報処理1d** 授業コード : **1A150**  
 英文科目名称 : **Information Processing 1d**

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2単位	必修
担当教員			
樽井 勇之			
教養教育	演習		
添付ファイル			

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等  授業で使用する言語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他  アクティブラーニング <input type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている
------	---

授業の内容 (概要)	(1)データを取り扱うハードウェア・ソフトウェア、(2)情報の可視化、(3)データの読み取り、(4)データの説明、(5)サーベイ実習、(6)プログラムの作成方法、(7)情報セキュリティを学ぶ。
------------	--

授業の目的	情報リテラシーおよびプログラム作成が授業目標である。データの取り扱いを中心とした情報リテラシー能力を身に付け、情報の可視化やサーベイ実習を通じてデータの読み取り方やデータの説明の仕方を学ぶ。また、プログラミングを通じて論理的思考を身に付ける。
-------	---

到達目標	この授業を履修することで、次の能力を養います。 ・データを取り扱うハードウェアやソフトウェアの基礎 ・表計算ソフトの利用やグラフ作成 ・プログラム作成 ・情報セキュリティの基礎
------	--

授業計画	第1回 ガイダンス CALL教室の基礎知識 データを取り扱うハードウェア  第2回 データを取り扱うソフトウェア データを作る表計算ソフト  第3回 情報を可視化する 情報の可視化、可視化手法  第4回 データを読み取る グラフから読む、データの尺度と種類、データの中心、度数分布表  第5回 データを読み取る データのばらつき、クロス集計、散布図と相関、標本調査  第6回 データを説明する 統計とコミュニケーション、気温の変化(箱ひげ図)  第7回 サーベイの基礎1 データを収集・蓄積・活用する  第8回 サーベイの基礎2 アンケートの検討とアンケートフォームの作成  第9回 サーベイの基礎3 アンケートの調査と集計  第10回 サーベイの基礎4 アンケートのレポート作成  第11回 プログラミング1 プログラムの開発方法、オンラインCコ
------	--

	第12回 プログラミング2 データの取り扱い 第13回 プログラミング3 構造化プログラミング 第14回 プログラミング4 プログラミングのまとめ 第15回 情報セキュリティ 情報セキュリティ、個人情報の保護と活用						
テキスト	新入生のためのデータサイエンス入門、豊田修一ほか、ISBN-9784320125728、共立出版						
テキスト購入方法	一学内斡旋販売						
参考文献	授業中に指示する。						
成績評価の方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>評価割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価の説明 課題（80%）は表計算ソフトなどで作成した電子ファイルでの提出が中心になります。小テスト（20%）は授業中に実施したペーパーテストなどで評価します。</p>	評価項目	評価割合	課題	80%	小テスト	20%
評価項目	評価割合						
課題	80%						
小テスト	20%						
教員への連絡方法	メールアドレスを周知します。						
履修上の注意	課題を出題するので必ず期限内に提出すること。						
授業外学修情報（予習復習）	復習に60分程度を要する。						
学生へのメッセージ	実習時間をできるだけ多く取るので積極的にコンピュータに触れて下さい。						

 ページ先頭へ戻る

選択した講義の内容です

令和 6 年度

操作ボタン

印刷

講義科目名称 : 情報・データ処理基礎αβ・γδ

授業コード : 1B125 1B130

英文科目名称 : Basic ICT Skills and Data Handling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2単位	必修
担当教員			
甲村 美帆/樽井 勇之			
教養教育	講義	教養基礎	
添付ファイル			

授業種類	<p>実務経験のある教員等による授業科目</p> <p><input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目</p> <p><input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目</p> <p>実務経験・授業での活用、招へいする実務家等</p> <p>授業で使用する言語</p> <p>■ 日本語</p> <p><input type="checkbox"/> 英語</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>アクティブラーニング</p> <p>■ アクティブラーニング要素を取り入れている</p>
授業の内容（概要）	情報端末を用いて実習しながら、数理・データサイエンス・AIのリテラシーを習得します。
授業の目的	大学生に求められる基本的な数理・情報の基礎知識と技能を学びます。実際に手を動かして実習し、データ駆動型社会に対応する能力の基礎を身につけます。 この科目の修得は、本学部の定めるDP2の達成に関与します。
到達目標	この授業を履修することで、次の能力・態度を養います。 ・デジタル化社会で起きている変化や生成AIのインパクトを理解できる。 ・情報セキュリティへの心得を醸成できる。 ・数理的教養に親しみ、データを適切に読み解くことができる。 ・データを適切に活用しながら他者に説明することができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 授業の説明、大学での情報機器の利用方法をガイダンスします。</p> <p>第2回 社会で起きている変化 データ駆動型の現代社会を概観します。大学で学ぶ情報・データリテラシーと社会との接続を理解します。 教科書p.6-19</p> <p>第3回 AI時代の到来、生成AIの基礎と展望 AI（人工知能）の仕組みを学習します。生成AIに触れ、社会での活用を議論するとともに、負の側面の理解も深めます。 教科書p.20-31</p> <p>第4回 データを守るための留意事項 インターネットの仕組みを学習します。インターネットを利用するうえで欠かせないセキュリティの基礎知識を身につけます。 教科書p.32-43</p> <p>第5回 データ活用と必要なスキル 表計算アプリケーション（スプレッドシート）を使って演習を行います。データを読み取り、活用するための知識を習得します。 教科書p.44-53</p> <p>第6回 データの準備とデータのタイプ データを分類する手法を学習します。データを適切に扱うための基礎知識を身につけます。 教科書p.54-67</p> <p>第7回 アンケートデータを要約しよう アンケートデータを利用しながら、データを要約します。 教科書p.68-81</p> <p>第8回 データを比較して仮説を考えよう データを用いた仮説検証、分析結果の解釈について概観します。 教科書p.82-93</p> <p>第9回 データを代表値で要約する 代表値、度数分布、ヒストグラムを用いてデータの傾向を読み解きます。統計情報を適切に理解するための態度を、議論を通じて身につけます。 教科書p.94-107</p>

第10回	量的変数をばらつきで要約する データの分散を理解します。基本統計量を算出します。 教科書p.108-121						
第11回	平均と標準偏差を活用しよう データの標準化を理解します。 教科書p.122-133						
第12回	散布図を活用して関係性を分析する 模擬データを用いて散布図を描きます。相関関係と因果関係を考察します。 教科書p.134-147						
第13回	データ分析を活用するために知っておきたいポイント データ分析の結果をまとめ、他者に「的確かつ正確に」情報を伝えるにはどんな技術や考え方が必要かを議論します。 教科書p.148-156						
第14回	サーベイ実習1 グループで実習を行い、結果をまとめます。						
第15回	サーベイ実習2 グループで実習を行い、結果をまとめます。						
テキスト	富士通ラーニングメディア 2023 『はじめて学ぶ 数理・データサイエンス・AI』 FOM出版 <a href="https://www.fom.fujitsu.com/goods/education/fpt2313.html">https://www.fom.fujitsu.com/goods/education/fpt2313.html</a>						
テキスト購入方法	1年生は年初一括購入（自分で注文する必要はありません）。 転入生、編入生、再履修者は各自で購入してください。						
参考文献	-						
成績評価の方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>評価割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業時の演習</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>テストを含む課題</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価の説明 欠席は減点対象です。欠席が5回を超えると成績評価は「欠(X)」になります。詳細は各担当教員の指示に従ってください。</p>	評価項目	評価割合	授業時の演習	20%	テストを含む課題	80%
評価項目	評価割合						
授業時の演習	20%						
テストを含む課題	80%						
教員への連絡方法	履修生には担当教員のメールアドレスを周知します。						
履修上の注意	本授業は英語クラスαβとγδに準じて2クラスに分かれます。クラスによって曜時限が異なるので時間割を確認してください。 転入生、編入生、再履修者はどちらのクラスを受講してもかまいません。						
授業外学修情報（予習復習）	予復習および技能習得のために毎回4時間の授業外学習が必要です。						
学生へのメッセージ	担当教員の許可のない限り、生成AIの出力を提出課題等に利用することを禁止します。詳しくは担当教員の指示に従ってください。						

2024年度  
履修要項

群馬県立女子大学

## 7. 教育課程

大学4年間における教育課程は、次のとおりである。

(1) 教養教育科目 (2024年度入学用)

教養教育科目とは、I. 文学部教養教育科目、II. 文学部・国際コミュニケーション学部共通教養教育科目を包括する名称である。

### I. 文学部教養教育科目

科目群	コース ナンバー	科 目	副 題	担当教員	単位	必修選択 自由の別	授業形態	開講期別	履修年次	備考
教養 基礎 科目	A1001	基礎ゼミ		市川(祥)/國澤/富岡 /島田/小林(隆)/木 下(耕)/武藤/浦木/ 神崎/鈴木(親)/山崎 (隆)	2	必修	演習	前期	1	
	A1002	日本語文章表現		権田/鈴木(崇)/二村 //板野/市川(祥)/井 上/権田/佐藤(洋)/ 鈴木(崇)	2	必修	演習	前期・後期	1	
	A1004	情報処理1		黒田/関川/樽井/樽 井	2	必修	演習	前期	1	
	A1005	情報処理2		清水(健)/清水(健)	2	選択	演習	後期	1	
	A1101	英語A		小林(徹)	1	選択	演習	前期	1	
A1102	英語B		飯村	1	選択	演習	前期	1		
A1103	英語C		小林(徹)	1	選択	演習	後期	1		
A1104	英語D		松崎	1	選択	演習	後期	1		
A2101	英語E		松崎	1	選択	演習	前期	2		
A2102	英語F		島田	1	選択	演習	前期	2		
A2103	英語G		小林(隆)	1	選択	演習	後期	2		
A2104	英語H		木下(耕)	1	選択	演習	後期	2		
A1117	英語I		渡邊(藍)	1	選択	演習	前期	1		
A1118	英語J		清水(啓)	1	選択	演習	前期	1		
A1119	英語K		渡邊(藍)	1	選択	演習	後期	1		
A1120	英語L		清水(啓)	1	選択	演習	後期	1		
A1105	英会話A		ヨシダ	1	選択	演習	前期	1		
A1106	英会話B		大島	1	選択	演習	前期	1		
A1107	英会話C		金谷	1	選択	演習	前期	1		
A1108	英会話D		マックスウィーニー	1	選択	演習	後期	1		
A1109	英会話E		フェリアー	1	選択	演習	後期	1		
A1110	英会話F		大島	1	選択	演習	後期	1		
A2105	英会話G		H. マイヤー	1	選択	演習	前期	2		
A2106	英会話H		大島	1	選択	演習	前期	2		
A2107	英会話I		金谷	1	選択	演習	前期	2		
A2108	英会話J		カンナ	1	選択	演習	後期	2		
A2109	英会話K		金谷	1	選択	演習	後期	2		
A2110	英会話L		フェリアー	1	選択	演習	後期	2		
A2111	中級英会話A		ムラモト	1	選択	演習	前期	2		
A2112	中級英会話B		フェリアー	1	選択	演習	前期	2		
A2113	中級英会話D		フェリアー	1	選択	演習	後期	2		
A2114	中級英会話E		フェリアー	1	選択	演習	後期	2		
A1111	TOEICセミナーA		カンナ	1	選択	演習	前期	1		
A1112	TOEICセミナーB		マックスウィーニー	1	選択	演習	前期	1		
A1113	TOEICセミナーC		カンナ	1	選択	演習	後期	1		
A1114	TOEICセミナーD		サカイ	1	選択	演習	後期	1		
A2115	TOEICセミナーE		ウィザロウ	1	選択	演習	前期	2		
A2116	TOEICセミナーF		ヨシダ	1	選択	演習	前期	2		
A2117	TOEICセミナーG		ヨシダ	1	選択	演習	後期	2		
A2118	TOEICセミナーH		H. マイヤー	1	選択	演習	後期	2		
A1115	TOEFLセミナーA		サカイ	1	選択	演習	前期	1		
A1116	TOEFLセミナーB		ウィザロウ	1	選択	演習	後期	1		

## 10 教育課程

### 【2024年度入学者用】

(1) 教養教育科目(両課程共通)

教養教育科目とは、Ⅰ. 国際コミュニケーション学部教養教育科目、Ⅱ. 文学部・国際コミュニケーション学部共通教養教育科目を包括する名称である。

#### Ⅰ. 国際コミュニケーション学部教養教育科目

科目群	コース ナンバー	科目	副題	担当教員	単位	必修選択 自由の別	授業 形態	開講期別	履修年次	ディプロマ ポリシー	区分	備考
教養 基礎 科目	B1501	スタディ・スキルズ		干/鈴木(悠)/原谷/布 田/山岡	2	必修	講義	前期	1	2		◆
	B1504	情報・データ処理基礎		甲村/樽井	2	必修	講義	前期	1	2		◆
	B1001	TOEIC I		中村(さ)	1	必修	演習	前期	1	1		◆
	B1002	TOEIC II		中村(さ)	1	必修	演習	後期	1	1		◆
	B2001	TOEIC Lab I		梅田/小笠原/神谷/ス ネイブ/深谷/細井/吉 村	1	必修		前期・後期	2	1・4		◆
	B2002	TOEIC Lab II			1	必修		前期・後期	2	1・4		◆
自律 学習	B1701-1702	海外語学実習Ⅰ、Ⅱ		小笠原/スネイブ/野 口	2※	選択		前期・後期	1・2・3・4	4	C	◆
	B1707-1708	英語基礎自律学習Ⅰ、Ⅱ		細井	2※	選択		前期・後期	1・2・3・4	4	C	◆
	B1711-1712	Reading Break自律学習Ⅰ、Ⅱ		スネイブ	2※	選択		前期・後期	1・2・3・4	1・4	C	◆
	B1801-1802	海外ボランティアⅠ、Ⅱ		日詰/布田	2※	選択		前期・後期	1・2・3・4	1・4	C	◆
	B1803-1804	海外インターンシップⅠ、Ⅱ		日詰/布田	2※	選択		前期・後期	1・2・3・4	1・4	C	◆
	B1805-1806	シチズンシップⅠ、Ⅱ		干/山岡	2※	選択		前期・後期	1・2・3・4	4	C	◆
資 格 科 目	B1901-1908	英語能力検定Ⅰ～Ⅷ			8※	選択		前期・後期	1・2・3・4	1・4	C	◆
	B1951-1958	情報データ処理試験Ⅰ～Ⅷ			8※	選択		前期・後期	1・2・3・4	4	C	◆
	B1921-1928	その他検定等Ⅰ～Ⅷ			8※	選択		前期・後期	1・2・3・4	4	C	◆
	B1944	学外キャリア学修(単位認定)			36※	選択		前期・後期	1・2・3・4	4	C	◆

- 区分Cの履修単位は卒業要件単位を充足するための、「その他」の単位に含める。
- 「学外キャリア学修」は、本学以外の大学・専門学校等において修得した単位等を単位認定するものである。認定方法等については、事務局へ問い合わせること。
- 単位に「※」のある科目は、最大認定単位数を示す。
- 備考欄の「◆」は、国際コミュニケーション学部の学生のみ履修できる科目を示す。

# 群馬県立女子大学内部質保証規程

## 第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、群馬県立女子大学（以下「本学」という。）が目的の実現及び社会的使命を達成するため、群馬県立女子大学内部質保証に関する基本方針に基づき、教育研究活動等について継続的に点検・評価を行い、改善・向上に努めることによって、その質を保証する体制及びその取り組みの実施に必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規程において、次に掲げる用語の定義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 内部質保証とは、本学における教育研究活動等や組織運営、施設設備等の状況について、自ら点検・評価し、改善することにより、本学の教育の質を保証することをいう。
- (2) 自己点検・評価とは、学校教育法第109条第1項、群馬県立女子大学学則（群馬県公立大学法人規則第4号）第2条第1項及び群馬県立女子大学大学院学則（群馬県公立大学法人規則第5号）第2条第1項の規定に基づき、本学が行う教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価し、その結果を公表することをいう。
- (3) 第三者評価とは、第4号及び第5号に定める独立した第三者組織による評価をいう。
- (4) 認証評価とは、学校教育法第109条第2項の規定に基づき、認証評価機関が実施する評価をいう。
- (5) 法人評価とは、地方独立行政法人法第78条の2の規定に基づき、群馬県公立大学法人評価委員会が行う、群馬県公立大学法人における中期目標及び中期計画に対する教育研究活動や業務運営などの達成状況に関する総合的な評価をいう。
- (6) 教育研究活動等とは、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備に係る総合的な活動をいう。
- (7) 部局及び学内組織とは、学部、研究科、附属図書館、学生委員会、教育環境整備推進委員会、社会貢献委員会、外国語教育研究所、群馬学センター、地域日本語教育センター、キャリア支援センター及び事務局をいう。

## 第2章 内部質保証に係る体制

(全学の責任体制)

第3条 本学の内部質保証に関する最高責任者は、学長とする。

- 2 全学の自己点検・評価及び第三者評価の責任者は、附属図書館長をもって充て

る。

- 3 部局及び学内組織の自己点検・評価、当該結果を踏まえた教育研究活動等の質の改善・向上に係る責任者は、部局及び学内組織の長をもって充てる。
- 4 前2項の責任者は、当該所掌の任務に係る内部質保証に関し必要な具体的措置を講じなければならない。

(内部質保証推進委員会)

第4条 内部質保証業務の中核となり、責任を負う機関として内部質保証推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 附属図書館長
- (3) 各学部長
- (4) 各研究科長
- (5) 事務局長
- (6) 前各号に掲げるもののほか学長が必要と認めた者

3 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

4 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名した者がその職務を代理する。

5 第2項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

7 委員会は、次の各事項に関し、審議し、教育研究審議会に附議する。

- (1) 自己点検・評価に関すること。
- (2) 教育研究活動等の改善など質の保証に関すること。
- (3) 中期計画、業務実績報告及び法人評価に関すること。
- (4) 認証評価に関すること。
- (5) その他内部質保証の推進に関すること。

8 委員会は、前項第1号、第3号及び第4号の各評価に対応するため、全学の教育に関する点検・評価の基準、手順及び改善に関する手続き等を定めることとする。

9 委員会に、内部質保証の特定事項について調査・研究・検討等を行うための部会を置くことができる。

10 委員会に関する事務は、事務局総務企画係において処理する。

11 その他委員会の運営等に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(自己点検・評価専門部会)

第5条 自己点検・評価及び第三者評価に係る委員会審議を適切に実施するため、委員会に大学全体の自己点検・評価活動を牽引・実施・総括する自己点検・評価専門部会(以下「専門部会」という。)を置く。

2 専門部会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 附属図書館長
- (2) 文学部各学科長
- (3) 国際コミュニケーション学部各課程長
- (4) 各研究科各専攻主任
- (5) 各学部・研究科教務委員長
- (6) 各学部・研究科入試委員長
- (7) 学生委員長
- (8) 教育環境整備推進委員長
- (9) 社会貢献委員長
- (10) 外国語教育研究所副所長
- (11) 群馬学センター副センター長
- (12) 地域日本語教育センター副センター長
- (13) キャリア支援センター副センター長
- (14) 事務局次長
- (15) 前各号に掲げるもののほか、次項に定める部会長が必要と認めた者

3 進捗管理や委員会への報告、各部局及び学内組織への指示伝達等を行うため、専門部会に部会長を置き、附属図書館長をもって充てる。

4 部会長に事故があるとき、又は部会長が欠けたときは、部会長があらかじめ指名した者がその職務を代理する。

5 第2項の部会員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の部会員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 部会長は、専門部会を招集し、その議長となる。

7 専門部会は、委員会の指示を受け、次の事項についてとりまとめ・確認・検討等を実施する。

- (1) 自己点検・評価の実施に関すること。
- (2) 中期計画、業務実績報告及び法人評価に関すること。
- (3) 認証評価に関すること。

8 部会員は、所属する部局及び学内組織所掌分野の自己点検・評価活動を主導する。

9 専門部会に関する事務は、事務局総務企画係において処理する。

(部局及び学内組織の責務)

第6条 各部局及び学内組織の教育研究活動等に係る質保証は、全学の内部質保証体制のもと、各部局及び学内組織において責任を持って行う。

### 第3章 自己点検・評価

(自己点検・評価の実施)

第7条 自己点検・評価は、全学で実施するとともに、各部局及び学内組織及び各教職員においても実施する。

- 2 自己点検・評価の基準は、法人評価及び認証評価による評価事項を踏まえ、委員会が決定する。
- 3 自己点検・評価に関し、具体的な点検・評価の方法等その他必要な事項は、委員会が別に定める。
- 4 委員会は、群馬県立女子大学内部質保証に関する基本方針及び教育研究審議会の決定に基づき、専門部会に対して自己点検・評価の実施及びその結果に基づいた報告書の提出を指示する。
- 5 専門部会は、委員会の指示に基づき、具体的な自己点検・評価日程等を決定の上、部局及び学内組織に点検・評価活動の実施及び結果報告を指示し、また、部局及び学内組織の点検・評価結果をとりまとめ、確認の上、委員会に報告する。

(自己点検・評価結果の報告)

第8条 委員会は、前条第5項により報告された自己点検・評価結果の検証を行うとともに、全学的視点から、本学の長所・特色、課題等を客観的に評価し、大学としての自己点検・評価報告書を作成する。

#### 第4章 第三者評価

(認証評価及び法人評価)

第9条 認証評価及び法人評価の受審に際しては、第3条から第7条までに定める内部質保証に係る体制の下で対応することとし、具体的な取組み等その他必要な事項は、別に定める。

#### 第5章 質の向上及び改善

(評価結果等を踏まえた改善等の取組み)

第10条 大学は、自己点検・評価、第三者評価の結果に基づき、改善等が必要と認められるものについては、その改善等に真摯に取り組む。

- 2 委員会は、前項の改善等が必要な事項に関し、改善実施計画案を策定し、教育研究審議会は、その妥当性について審議し、学長は教育研究審議会の議を経てこれを承認する。
- 3 委員会は、前項の規定により承認された計画に基づき、専門部会に対して改善及び改善状況の報告を指示する。
- 4 専門部会は、前項の指示を受け、具体的な改善日程等を決定の上、部局及び学内組織に改善及び改善状況の報告を指示し、また、部局及び学内組織の改善状況をとりまとめ、確認の上、委員会に報告する。
- 5 委員会は、専門部会から前項に規定する報告を受けたときは、その内容を全学的視点で検証の上、教育研究審議会に対し報告する。
- 6 各部局及び学内組織及び各教職員は、自己点検・評価の結果に基づいて、計画的かつ継続的に改善に取り組まなければならない。

7 その他改善等の取組みに関し必要な事項は、別に定める。

(情報の公表)

第11条 学長は、群馬県立女子大学学則第2条第1項及び群馬県立女子大学大学院学則第2条第1項に規定するとおり、自己点検・評価結果等の内部質保証に係る情報を積極的に学外に公表し、教育研究活動等及びその改善状況にかかる透明性を保証する。

## 第6章 その他

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、内部質保証に関し必要な事項は、別に定める。

(改廃)

第13条 この規程の改廃は、委員会に諮り、教育研究審議会の議を経て、学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、令和3年6月1日から施行する。
- 2 群馬県立女子大学自己点検・評価運営委員会規程（平成30年4月1日制定）は、廃止する。
- 3 規程の施行後、最初に就任する第4条第2項、第5条第2項、第6条第2項、第7条第2項の委員等の任期は、各条第5項本文の規定にかかわらず、令和4年3月31日までとする。

附 則

この規程は、令和5年12月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

# 群馬県立女子大学内部質保証規程

## 第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、群馬県立女子大学（以下「本学」という。）が目的の実現及び社会的使命を達成するため、群馬県立女子大学内部質保証に関する基本方針に基づき、教育研究活動等について継続的に点検・評価を行い、改善・向上に努めることによって、その質を保証する体制及びその取り組みの実施に必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規程において、次に掲げる用語の定義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 内部質保証とは、本学における教育研究活動等や組織運営、施設設備等の状況について、自ら点検・評価し、改善することにより、本学の教育の質を保証することをいう。
- (2) 自己点検・評価とは、学校教育法第109条第1項、群馬県立女子大学学則（群馬県公立大学法人規則第4号）第2条第1項及び群馬県立女子大学大学院学則（群馬県公立大学法人規則第5号）第2条第1項の規定に基づき、本学が行う教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価し、その結果を公表することをいう。
- (3) 第三者評価とは、第4号及び第5号に定める独立した第三者組織による評価をいう。
- (4) 認証評価とは、学校教育法第109条第2項の規定に基づき、認証評価機関が実施する評価をいう。
- (5) 法人評価とは、地方独立行政法人法第78条の2の規定に基づき、群馬県公立大学法人評価委員会が行う、群馬県公立大学法人における中期目標及び中期計画に対する教育研究活動や業務運営などの達成状況に関する総合的な評価をいう。
- (6) 教育研究活動等とは、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備に係る総合的な活動をいう。
- (7) 部局及び学内組織とは、学部、研究科、附属図書館、学生委員会、教育環境整備推進委員会、社会貢献委員会、外国語教育研究所、群馬学センター、地域日本語教育センター、キャリア支援センター及び事務局をいう。

## 第2章 内部質保証に係る体制

(全学の責任体制)

第3条 本学の内部質保証に関する最高責任者は、学長とする。

- 2 全学の自己点検・評価及び第三者評価の責任者は、附属図書館長をもって充て

る。

- 3 部局及び学内組織の自己点検・評価、当該結果を踏まえた教育研究活動等の質の改善・向上に係る責任者は、部局及び学内組織の長をもって充てる。
- 4 前2項の責任者は、当該所掌の任務に係る内部質保証に関し必要な具体的措置を講じなければならない。

(内部質保証推進委員会)

第4条 内部質保証業務の中核となり、責任を負う機関として内部質保証推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 附属図書館長
- (3) 各学部長
- (4) 各研究科長
- (5) 事務局長
- (6) 前各号に掲げるもののほか学長が必要と認めた者

3 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

4 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名した者がその職務を代理する。

5 第2項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

7 委員会は、次の各事項に関し、審議し、教育研究審議会に附議する。

- (1) 自己点検・評価に関すること。
- (2) 教育研究活動等の改善など質の保証に関すること。
- (3) 中期計画、業務実績報告及び法人評価に関すること。
- (4) 認証評価に関すること。
- (5) その他内部質保証の推進に関すること。

8 委員会は、前項第1号、第3号及び第4号の各評価に対応するため、全学の教育に関する点検・評価の基準、手順及び改善に関する手続き等を定めることとする。

9 委員会に、内部質保証の特定事項について調査・研究・検討等を行うための部会を置くことができる。

10 委員会に関する事務は、事務局総務企画係において処理する。

11 その他委員会の運営等に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(自己点検・評価専門部会)

第5条 自己点検・評価及び第三者評価に係る委員会審議を適切に実施するため、委員会に大学全体の自己点検・評価活動を牽引・実施・総括する自己点検・評価専門部会(以下「専門部会」という。)を置く。

2 専門部会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 附属図書館長
- (2) 文学部各学科長
- (3) 国際コミュニケーション学部各課程長
- (4) 各研究科各専攻主任
- (5) 各学部・研究科教務委員長
- (6) 各学部・研究科入試委員長
- (7) 学生委員長
- (8) 教育環境整備推進委員長
- (9) 社会貢献委員長
- (10) 外国語教育研究所副所長
- (11) 群馬学センター副センター長
- (12) 地域日本語教育センター副センター長
- (13) キャリア支援センター副センター長
- (14) 事務局次長
- (15) 前各号に掲げるもののほか、次項に定める部会長が必要と認めた者

3 進捗管理や委員会への報告、各部局及び学内組織への指示伝達等を行うため、専門部会に部会長を置き、附属図書館長をもって充てる。

4 部会長に事故があるとき、又は部会長が欠けたときは、部会長があらかじめ指名した者がその職務を代理する。

5 第2項の部会員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の部会員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 部会長は、専門部会を招集し、その議長となる。

7 専門部会は、委員会の指示を受け、次の事項についてとりまとめ・確認・検討等を実施する。

- (1) 自己点検・評価の実施に関すること。
- (2) 中期計画、業務実績報告及び法人評価に関すること。
- (3) 認証評価に関すること。

8 部会員は、所属する部局及び学内組織所掌分野の自己点検・評価活動を主導する。

9 専門部会に関する事務は、事務局総務企画係において処理する。

(部局及び学内組織の責務)

第6条 各部局及び学内組織の教育研究活動等に係る質保証は、全学の内部質保証体制のもと、各部局及び学内組織において責任を持って行う。

### 第3章 自己点検・評価

(自己点検・評価の実施)

第7条 自己点検・評価は、全学で実施するとともに、各部局及び学内組織及び各教職員においても実施する。

- 2 自己点検・評価の基準は、法人評価及び認証評価による評価事項を踏まえ、委員会が決定する。
- 3 自己点検・評価に関し、具体的な点検・評価の方法等その他必要な事項は、委員会が別に定める。
- 4 委員会は、群馬県立女子大学内部質保証に関する基本方針及び教育研究審議会の決定に基づき、専門部会に対して自己点検・評価の実施及びその結果に基づいた報告書の提出を指示する。
- 5 専門部会は、委員会の指示に基づき、具体的な自己点検・評価日程等を決定の上、部局及び学内組織に点検・評価活動の実施及び結果報告を指示し、また、部局及び学内組織の点検・評価結果をとりまとめ、確認の上、委員会に報告する。

(自己点検・評価結果の報告)

第8条 委員会は、前条第5項により報告された自己点検・評価結果の検証を行うとともに、全学的視点から、本学の長所・特色、課題等を客観的に評価し、大学としての自己点検・評価報告書を作成する。

#### 第4章 第三者評価

(認証評価及び法人評価)

第9条 認証評価及び法人評価の受審に際しては、第3条から第7条までに定める内部質保証に係る体制の下で対応することとし、具体的な取組み等その他必要な事項は、別に定める。

#### 第5章 質の向上及び改善

(評価結果等を踏まえた改善等の取組み)

第10条 大学は、自己点検・評価、第三者評価の結果に基づき、改善等が必要と認められるものについては、その改善等に真摯に取り組む。

- 2 委員会は、前項の改善等が必要な事項に関し、改善実施計画案を策定し、教育研究審議会は、その妥当性について審議し、学長は教育研究審議会の議を経てこれを承認する。
- 3 委員会は、前項の規定により承認された計画に基づき、専門部会に対して改善及び改善状況の報告を指示する。
- 4 専門部会は、前項の指示を受け、具体的な改善日程等を決定の上、部局及び学内組織に改善及び改善状況の報告を指示し、また、部局及び学内組織の改善状況をとりまとめ、確認の上、委員会に報告する。
- 5 委員会は、専門部会から前項に規定する報告を受けたときは、その内容を全学的視点で検証の上、教育研究審議会に対し報告する。
- 6 各部局及び学内組織及び各教職員は、自己点検・評価の結果に基づいて、計画的かつ継続的に改善に取り組まなければならない。

7 その他改善等の取組みに関し必要な事項は、別に定める。

(情報の公表)

第11条 学長は、群馬県立女子大学学則第2条第1項及び群馬県立女子大学大学院学則第2条第1項に規定するとおり、自己点検・評価結果等の内部質保証に係る情報を積極的に学外に公表し、教育研究活動等及びその改善状況にかかる透明性を保証する。

## 第6章 その他

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、内部質保証に関し必要な事項は、別に定める。

(改廃)

第13条 この規程の改廃は、委員会に諮り、教育研究審議会の議を経て、学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、令和3年6月1日から施行する。
- 2 群馬県立女子大学自己点検・評価運営委員会規程（平成30年4月1日制定）は、廃止する。
- 3 規程の施行後、最初に就任する第4条第2項、第5条第2項、第6条第2項、第7条第2項の委員等の任期は、各条第5項本文の規定にかかわらず、令和4年3月31日までとする。

附 則

この規程は、令和5年12月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

大学等名	群馬県立女子大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	群馬県立女子大学数理・データサイエンス・AI学習プログラム	申請年度	令和7年度

### ○プログラムの目的

現代社会において、情報技術が社会インフラとしての役割を果たし、また、AI技術や統計的な分析が分野を問わず基本的な思考の道具として使われるようになってきています。

このような社会情勢に対応するべく、大学生に求められる情報技術を適切に利用するためのスキルを身につけることを目的としています。

### ○達成目標

さまざまなデータを利用するための情報技術について、そのしくみを実習を通じて理解することや、情報セキュリティに関する基礎知識を修得することを目標としています。

### ○実施体制

内部質保証推進委員会にて、実施状況を確認します。

### <文学部>

#### ○身につけられる能力

- ・情報機器の操作と、文書作成などの基本的技術の習得
- ・情報セキュリティやモラルの基礎知識の習得
- ・プログラミングを通じた情報技術の理解

#### ○開講されている科目の構成

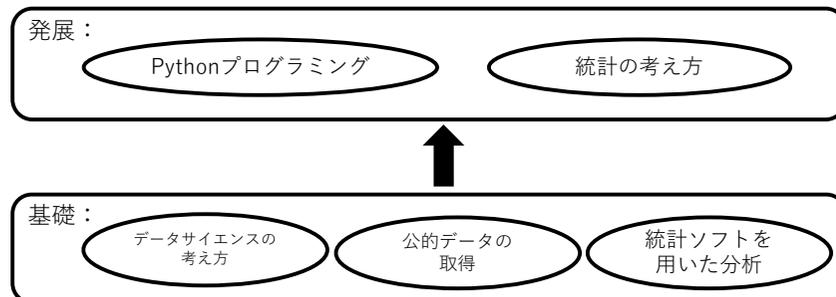
情報処理 1

#### ○科目の特色

公的データなど実際に利用されているデータを用いた実習を行い、データ分析の背景にある統計学の基礎的な概念の理解と、データ分析との実習を紐づけて考える授業を展開しています。プログラミングを用いたデータ分析の基礎的な実習も行います。

#### ○修了要件

情報処理 1 を修得すること。



### <国際コミュニケーション学部>

#### ○身に付けられる能力

- ・情報セキュリティへの心得を醸成できる。
- ・数理的教養に親しみ、データを適切に読み解くことができる。
- ・データを適切に活用しながら他者に説明することができる。

#### ○開講されている科目の構成

情報・データ処理基礎

#### ○科目の特色

基本的なデータ活用やデータ分析の方法を学ぶことができます。その他、デジタル化社会で起きている変化や生成AIのインパクトなど、関連する社会的な話題についても触れ、情報・データリテラシーと社会の接続の理解を深めることができます。

#### ○修了要件

情報・データ処理基礎を修得すること。